

静岡県における肝炎ウイルス検診陽性者フォローアップに関する研究

研究分担者 玄田拓哉 順天堂大学医学部附属静岡病院消化器内科 先任准教授

研究要旨：静岡県各市町において、ウイルス検診陽性者に対してソーシャルマーケティング手法を用い作成された受診勧奨リーフレットを送付した。リーフレット送付の効果確認のため、送付数の多かった富士市と富士宮市で送付地域と助成金受給者居住地域の突合を行い、送付前後の助成金交付数の変化を調査した。その結果、リーフレット送付数に比例した助成金交付数の増加が認められ、リーフレット送付の効果が確認された。

A. 研究目的

静岡県内各市町の肝炎ウイルス検診陽性者に対し、ソーシャルマーケティング手法を用いて作成された受診勧奨リーフレットを送付し、その効果を確認する。

B. 研究方法

郵便番号を基にして受診勧奨リーフレット送付地域と助成金受給者居住地域の突合を行い、リーフレット送付前後でのC型肝炎医療費助成交付数の変化を検討した。

C. 研究結果

2011年から2013年の3年間に、静岡県内ではのべ155,494件のC型肝炎ウイルス検診が行われ、812名が陽性となった（陽性率0.5%）。一方、2012年から2013年の期間に、C型肝炎治療助成金は静岡県内でのべ4420件の給付が行われた。給付金受給者地域分布は地域差があり、静岡市、富士市、富士宮市、沼津市で多い傾向があった（図1）。2015年度の静岡県C型肝炎医療費助成月別交付件数は、新規抗ウイルス薬の発売と一致して増加していた（図2）。この傾向は、静岡県内各保健所管轄地域別にみても同様であった（図3）。一方、受診勧奨リーフレットは静岡県内35市町のうち28市町で検診陽性者に対して送付された。各保健所管轄別受診勧奨リーフレット送付数と肝炎助成件数を比較すると、助成件数の少ない地域ではリーフレット送付数も少なかったが、助成件数の多い地域では、リーフレット送付数の多い地域と少ない地域が存在した（図4）。富士地域（富士市、富士宮市）は助成金交付件数とリーフレット送付数両者が多い地域であったため、富士市と富士宮市の担当部署の協力を得てリーフレット送付者と助成金受給者の住所（郵便番号）を

突合し、送付数と助成件数の関係を検討した。その結果、リーフレット送付数が多い地域では、送付後の助成件数増加が多いことが判明した（図5）。

図1



図2

C型肝炎医療費助成交付件数：2015年度

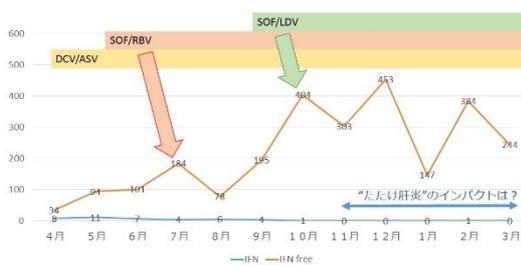


図3

C型肝炎医療費助成交付件数：管轄保健所別

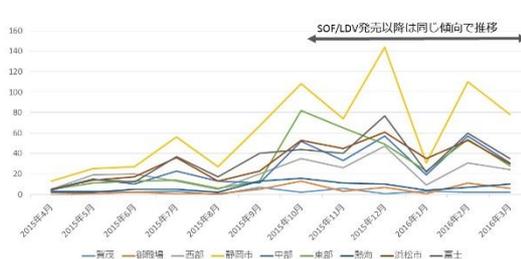
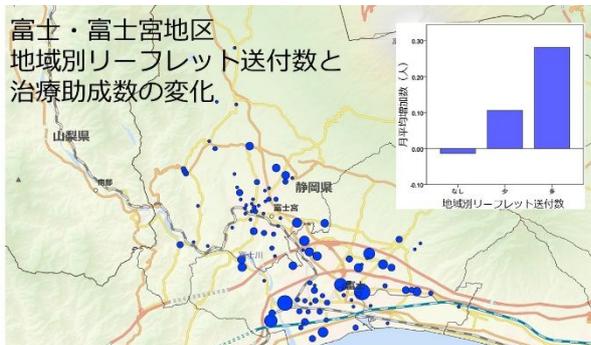


図 4

“たたけ肝炎”地域別送付数



図 5



D. 考 察

静岡県では、多くの市町で受診勧奨リーフレットの送付が行われた。しかし、送付数には地域差が認められ、過去に多数の助成金交付があり陽性率が高いと考えられる地域でも、十分な数の受診勧奨リーフレット送付が行えない市町が認められた。この原因として、行政に把握されている過去の検診陽性者の情報が、人手あるいは記録方法などの問題で十分活用できない状況にあることが考えられた。過去の助成数から陽性率の高い地域と考えられる富士市と富士宮市で、多数の受診勧奨リーフレット送付を行ったところ、送付数に比例した助成数の増加が確認された。この結果から、ソーシャルマーケティング手法を用いて作成されたリーフレットは検診陽性者に対する有力な受診勧奨ツールとなりうると考えられた。

E. 結 論

十分な受診勧奨リーフレット送付を行った地域において、その効果が確認し得た。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし